



小水力発電施設の適正管理の推進

中間農業地域

たきちようせいわ

多気町勢和地域資源保全・活用協議会（三重県多気町）

たきちよう

- 本地域は、以前から、地区外の大学、企業が地域資源の保全活動等に支援・協力。また、研究者と連携して、本地域をフィールドとして地域資源の保全活動の調査・検証を実施。
- これらの繋がりから、地域住民、大学、企業、行政等が協力して小水力発電施設を設置し、本交付金で発電施設の除塵や点検等の維持管理を行っている。得られた電力は、米粉等の6次産業施設や、活動における施設等の点検作業に使用する電気自動車の電源として利用。
- これらにより、H26年度は、2,800kWhの電力を発電。地区の子ども538人に対し、環境学習の機会を提供。また、自然エネルギーを活用したさらなる活動の展開を模索している。

【地区概要】

- ・取組面積 700ha(田480ha、畑220ha)
- ・資源量 開水路86.6km、農道87.5km、ため池8箇所
- ・主な構成員
農業者、営農組合、自治会、改良区、学校・PTA、図書館 等
- ・交付金 約21百万円(H29)

〔 農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化) 〕

活動開始前の状況や課題

- 地区外の大学、企業が地域資源の保全活動等の支援・協力団体として参加。研究者と連携して、地域資源の保全活動の調査・検証を実施。
- 農業用水を利用した小水力発電の実証研究にも取り組み、自然エネルギーを活用した多様な活動の可能性の検討を開始。



小水力発電の候補地調査（51cm落差）

取組内容

- 農業用水路をの落差工を活用して、小水力発電施設を設置。本交付金で発電施設の除塵や点検等の維持管理を実施。
- 電力は米粉等の6次産業施設、農業用水の管理施設や獣害対策の施設の点検等に使用する電気自動車、外灯に活用。
- また、地域の小学生を対象とした環境学習にも小水力発電施設を活用。



子ども達による小水力発電のビデオレポート

取組の効果

【小水力発電の設置】（平成26年度）

- ・小水力発電の規模:400W
- ・発電量:2,800kWh/年

【環境学習の実施】（平成26年度）

- ・開催回数:年3回
- ・参加児童数:538人

- 子どもを対象に、CO₂発生抑制などの環境学習も実施。学習に参加した子ども538人の環境への関心を啓発。

- 今後、自然エネルギーを活用したさらなる活動の展開を模索。





防災・減災力の強化の推進

さかまききょうど

やおつちょう

逆巻郷土を守る会（岐阜県八百津町）

- 本地域は、農業者の減少と高齢化が進んでいることから地域農業を維持していくためには、地域住民と協力した農地、農業用水路、農道の保安全管理が必要であった。
- 平成22年7月、ゲリラ豪雨による土砂災害を経験したことで地域住民の防災意識が高まり、農業関係者だけでなく、非農家の住民と協力して農業用排水路等の泥上げ清掃活動を行っている。
- 本活動への参加により、地域防災に対する意識向上や減災力の強化に繋がっている。

【地区概要】

- ・取組面積 6ha（田3ha、畑3ha）
 - ・資源量 開水路2.0km、パイプライン1.4km、農道2.0km
 - ・主な構成員 自治会、農業者、子供会、改良組合
 - ・交付金 約0.2百万円（H29）
- 〔 農地維持支払
資源向上支払（共同） 〕

活動開始前の状況や課題

- 急峻な山から木曾川へと流れる、長く高低差のある用排水路の管理には人も時間も多にかかるため、必要最低限の管理に留めていた。
- 平成22年の豪雨により町全域で水路の破損や流入した土砂による水路の閉塞等が発生。当地区では排水されなかった水により家屋への浸水被害を受けた。



被災状況（H22）



取組内容

- 一年間に、山から川へと繋がる水路すべての点検及び泥上げを行う。
- 農業者のみが使う水路という認識では無く、減災のために必要な水路という意識を持ち、非農家を含めた地域住民全員で共同活動を行っている。



上流から下流までの水路の管理

取組の効果

【減災効果】

平成22年以降も数多くのゲリラ豪雨、台風等が発生しており、平成23年の台風においても水路への土砂の流入、閉塞が確認されたが、共同活動として台風通過後に現地を見回り、泥上げ活動を行うなど、迅速な対応をとる事が出来た。

平成24年度以降も共同活動に継続して取り組み水路が良好に維持管理されている賜物か、現在は大きな被害は確認されていない。



上流から下流までの水路の管理



環境保全活動を通じて地域企業と交流

ひがしざかい かりやし
東境地域資源保全隊（愛知県刈谷市）

- 本地域は、大型郊外店の進出等急速に都市化が発展しており、非農家の割合が9割を超える都市近郊の農業地域。県営経営体育成基盤整備事業（平成16～21年度）を契機に維持管理体制の再構築を含めた組織づくりを図り、集落営農を核とした地域農業の継続的な発展を地域一体となって目指している。
- 平成29年8月に地域企業トヨタ車体㈱が主催し、外来種駆除活動や対策を行う人材の育成と、水辺の生き物に関する環境学習を目的としたミシシippアカミガメ駆除を開催。愛知県生態系ネットワーク協議会、小中学生、地域住民、研究者、環境省、刈谷市、当保全隊の産・官・学・民が一体となり実施。
- 地域企業デンソーと共催で清掃活動を実施。（デンソーハートフルデー、DECOウォーク刈谷）
- 平成19年度からクリーン大作戦を展開し、地域の約30の各ボランティア団体、企業、小中学校が参加。地域に根付いた活動となり、年々参加者は増加。ポイ捨てが目に見えて減っている。

【地区概要】

- ・取組面積 63 ha（田 63 ha）
- ・資源量
開水路 13.0 km、パイプライン 13.3 km
農道 11.2 km、ため池 6カ所
- ・主な構成員
農業者、自治会、同志会、
土地改良東境管理区
- ・交付金 約4百万円（H29）
〔 農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化） 〕

土地改良管理区が中心と なって維持管理体制の構築



年間活動計画作成



水路の泥上げ



ため池周辺の草刈り

産・官・学・民が一体となった 環境保全活動の取組

アカミガメの駆除 （生態系保全・水辺環境学習）



事前打合の状況



罠の設置状況



カメの捕獲状況



捕獲されたアカミガメ

捕獲したカメ

アカミガメ 54頭
ニホンイシガメ 1頭
ニホンスッポン 1頭

クリーン大作戦に 約30団体660名が参加



中学生分別作業



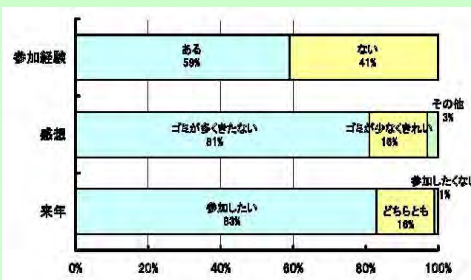
クリーン作業状況



アンケート調査



団体参加状況



アンケートでは、約6割の方が参加経験あり、約8割の方が次回も参加したいと回答。



世代を越えたため池、農業用水を守る取組

にごりいけ おわりあさひし
濁池地域環境保全の会（愛知県尾張旭市）

- 当会の位置する尾張旭市は、名古屋市に隣接する住宅都市で、農家数は総世帯数の1%程度。江戸時代から伝わる農業用ため池の「濁池」や用水路の江ざらいは4つの農業者組合で行い、農地周辺の草刈り等は地元自治会やボランティアグループが実施してきた。濁池を次世代に伝えていきたいとの地域住民の思いが一致し、農業者と非農業者が連携して活動組織を設立。
- 児童を対象に、濁池を農業用ため池としての歴史や役割を学ぶ教材とした出前講座のほか、濁池受益地の水田での田植えや稲刈り等の農業体験を実施するなど、子供たちに農業用水の大切さを伝えている。
- さらに多くの学校や地域住民との連携を深めるため、公民館や市民祭でのパネル展示等の広報活動に積極的に取り組んでいる。

【地区概要】

- ・取組面積 12ha(田8ha、畑4ha)
- ・資源量
開水路6.0km パイプライン1.2km、
ため池1箇所
- ・主な構成員
農業者、非農業者、農業者組合、
自治会、JA、市民ボランティア団体、
土地改良区
- ・交付金 約1百万円(H29)
 - 農地維持支払
 - 資源向上支払(共同、長寿命化)

「濁池」や農業用水を中心とした活動

濁池の保全活動

- ・「濁池を次世代に伝えていきたい」という地域住民の思いが一致し、農業者と非農業者が連携し草刈等の保全活動を実施している。

小学校への出前講座

- ・自治会等がスクールボランティアとして様々な学校行事に関わっていたこと、平成18年に愛知県が実施した「学童によるため池調査」で、児童から濁池に対して「水をきれいにしてほしい」、「ゴミをなくしてほしい」などの意見が寄せられていたことから、濁池を農業用ため池としての歴史や役割を学ぶ教材とし、児童を対象に出前講座を開催。
- ・木曽川上流にある牧尾ダムから木曽川を經由して濁池に通水されるまでの愛知用水の役割や水の大切さについて講義。



濁池の草刈作業



小学4年生を対象に行った出前講座

小学生の農業体験



春の田植え体験の様子



秋の稲刈り体験の様子



子供たちや地域住民に活動等を紹介

- ・地区公民館や市民祭等でパネル展示を行うなど積極的に広報活動に取り組んでおり、さらに多くの学校や地元の人々と連携をしていきたいと考えている。

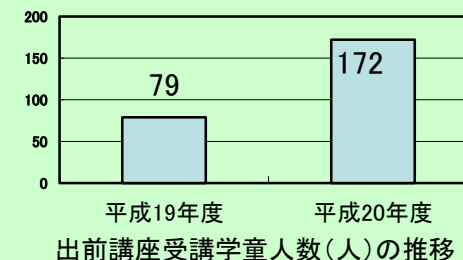


地元の公民館祭に出展



農業祭に出展

- ・出前講座については、平成19年度に小学4年生を対象に実施。20年度は校長が活動組織に出前講座の開催を呼びかけて、4年生と5年生を対象に実施。5年生は2年目の受講であり、水源涵養などより高度な内容の授業を受けた。





「三世代交流水田での米づくり」で住民交流

きたこまつ よっかいちし
緑ゆたかな北小松をまもる会（三重県四日市市）

- 三重県四日市市の北小松町では、地域住民の世代間の交流を深めたいとの思いから、平成17年より「三世代交流水田」での米づくりを実施。
- 平成19年に農地・水・環境保全向上対策に取り組むに当たっても、この三世代交流水田での米づくりを農村景観向上活動の「景観形成・生活環境保全」として位置付け、継続的な活動が展開されている。
- 三世代交流水田での米づくりは、地域の子供会（児童と父兄）と老人会が連携し、手植え、鎌による刈取り、足踏み式脱穀機による精米といった旧来の農法を用い実施している。
- この活動を通じて地域住民の世代間交流が深まるとともに、子供達を含む地域住民に農業や環境の大切さを伝えていきたいと考えている。

【地区概要】

- ・取組面積 17 ha（田17ha、畑0.3 ha）
- ・資源量
開水路2.8 km、パイプライン1.9 km、
農道11.5 km
- ・主な構成員
農業者、農事組合法人、自治会、
女性会、子供会、他6団体
- ・交付金 約1百万円（H29）

農地維持支払
資源向上支払（共同）

田 植 [5月]

子供会の児童と老人会が一緒になって、昔ながらの手植えにより田植え



稲刈り・脱穀 [9月]

子供会の児童らが老人会の指導のもと、鎌により手刈した稲を足踏み式脱穀機により精米



餅つき大会 [10月]

秋の大祭で、収穫した餅米を使い交流餅つき大会



世代間交流で、豊かな農村環境と文化を伝承



学校教育と連携した遊休農地対策

中間農業地域

たきちょうせいわ

たきちょう

多気町勢和地域資源保全・活用協議会（三重県多気町）

- 本地域では、従来から地域が連携して実施していた子どもの農業・農村の体験学習が継続的な取組となるよう、地元小学校と連携し、オリジナルコミュニティ・スクールとして実施。
- 本制度により、遊休農地を解消し、体験学習の場として整備。地域で話し合い、学習プログラムを作成し、郷土史学習や食農体験学習を実施。
- 子どもと地域社会とのつながりが深まるとともに、地域の多様な人々の活躍の場も創出。遊休農地の発生を抑制するとともに、獣害等の発生も防止。

【地区概要】

- ・取組面積 700ha（田480ha、畑220ha）
- ・資源量 開水路86.6km、農道87.5km、ため池8箇所
- ・主な構成員
農業者、営農組合、自治会、改良区、
学校・PTA、図書館 等
- ・交付金 約21百万円（H29）
（農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化））

活動開始前の状況や課題

- 本組織は、旧勢和村の全10集落がまとまって、平成19年度に設立。
- 従来から地域が連携し、子どもに農業・農村の体験学習を実施していたが、継続的に取組ができるよう、平成25年度からは、地域住民が学校運営に参画するオリジナルコミュニティ・スクール「SOCS※ おまめさんかなあプロジェクト」として地元小学校と連携して取り組むこととなった。

（※SOCS: Seiwa Original Community Schoolの略）

- 一方、小学校周辺に遊休農地があり、獣害や火災発生のおそれがあった。



小学校の側にあった遊休農地

取組内容

- 小学校周辺の遊休農地を解消し、体験学習の場として整備。
- 小学校と図書館、協議会、ボランティアからなる構成員（SOCSスタッフ）が話し合っ「SOCSおまめさんかなあプロジェクト」の総合学習プログラム（平成28年度は52時間）を作成。
- 地域の歴史的かんがい用水である立梅用水を題材とした郷土史学習や、大豆等の栽培から収穫、加工、伝統食づくりまでの体験学習を本プロジェクトとして実施。



水土里サポート隊の協力の下、遊休農地を解消



立梅用水を題材とした学習「水の道調べ」

取組の効果

- 本プロジェクトによって、子どもの農業や郷土への関心、地域社会とのつながりが深まっている。また、本組織の構成員である土地改良区や小学校、図書館等が連携することで、地域の多様な人々の活躍の場の提供にも貢献。

〔・本プロジェクトに参加するボランティアは46人中37人が女性（平成28年度）
・年間参加児童数は延べ2375人（平成28年度）〕

- 本プロジェクトを通じて、遊休農地の発生を抑制するとともに、獣害等の発生も防止している。

〔・遊休農地解消面積：35a〕



大豆畑の草取り



大豆を使った豆腐やきな粉、みそ作り